

1 廿日市市の概況

(1) 歴史的沿革

廿日市市は、もともと佐伯郡に属し、明治、昭和の合併、昭和63年4月1日の市制施行を経て、平成15年3月1日に佐伯町及び吉和村と、平成17年11月3日に大野町及び宮島町と合併しました。

廿日市市は、佐伯郡の政治・経済の中心地としての役割を担ってきた歴史的経緯を有し、昭和40年代の中頃からは広島市への通勤圏としての位置条件により、沿岸部において大規模な宅地開発が行われました。人口の急激な増加と都市化が進行し、拠点施設の整備や商業施設の立地等都市機能の充実に伴い、広島都市圏西部地域における拠点性が高まっています。内陸部についても、中小規模の住宅開発や工業団地の開発により、人口は増加し、田園住宅地としての性格を強めています。一方、山間部は過疎化・高齢化が進行しているものの、自然環境を生かしたリゾート地としての整備が進んでいます。

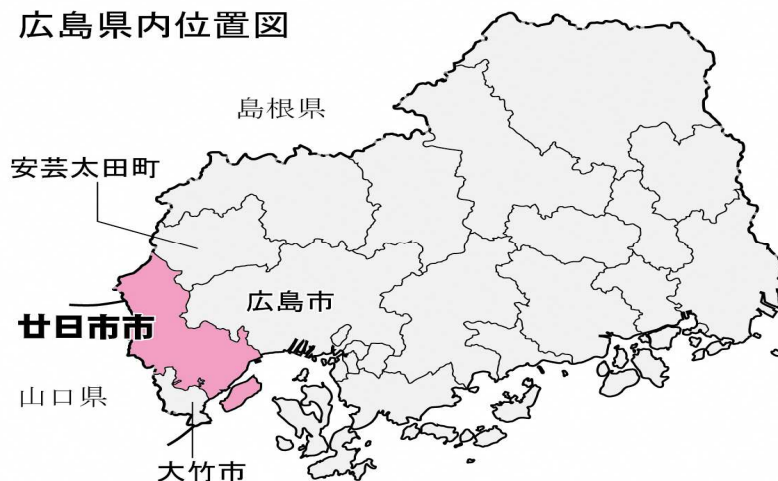
(2) 位置・地勢

廿日市市は、広島県の西部に位置し、北は島根県及び山県郡、東は広島市、西は山口県に接し、南は瀬戸内海に面しています。

面積は489.48平方キロメートルで、広島県の総面積の5.8パーセントを占めます。

山間部は、十方山や冠山などの連峰が西中国山地を形成し、その一部が西中国山地国立公園に指定され、太田川水系沿いに小盆地が形成されています。内陸部は、小瀬川水系沿いに平坦地が帯状に形成されています。沿岸部は、丘陵地帯とその間から流れる可愛川、御手洗川、永慶寺川等により形成された沖積平野や狭あいなデルタ及び海岸部の埋立地から構成されています。島しょ部は、周囲約30キロメートルでほぼ長方形を成し、島全体が特別史跡及び特別名勝、瀬戸内海国立公園、風致地区に指定され、その中に弥山、駒ケ林が連なり、急峻な山肌を見せています。

広島県内位置図



(3) 気 候

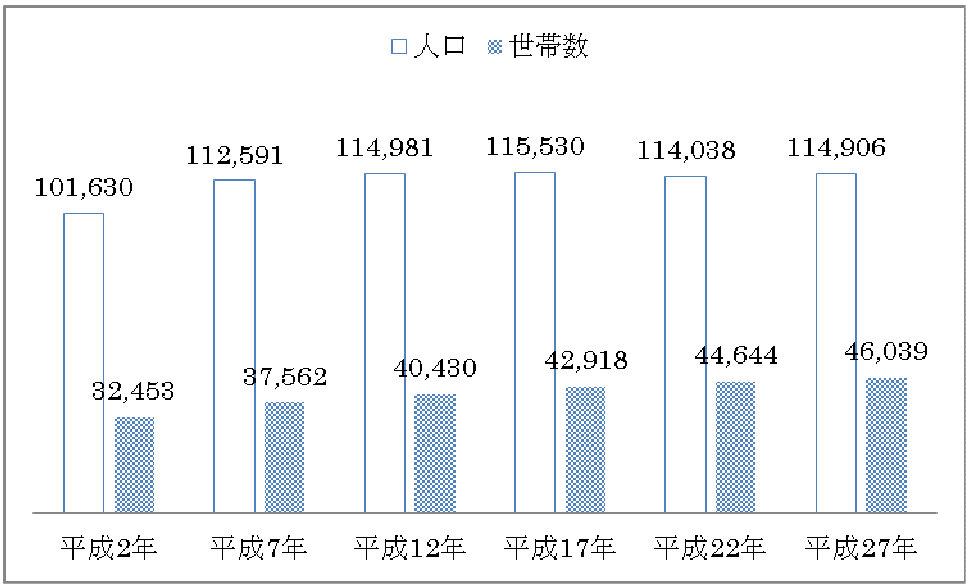
島しょ部及び沿岸部は、瀬戸内海式気候に属し、温暖で比較的少雨の過ごしやすい気候で、冬期も積雪はほとんど見られません。

内陸部は、冬期は一部地域で積雪があるなど高地の影響を受け、山間部は、冷涼多雨で豪雪地帯に指定され、夏期は過ごしやすいが、冬期は平地でもかなりの積雪となります。

(4) 人口・世帯数

廿日市市の人口は、平成17年にかけて増加傾向にあり、近年は横ばいで推移しています。世帯数は、一貫して増加傾向にあり、平成27年には46,039世帯となっています。

人口及び世帯数の推移 (単位：人、世帯)



※ 合併前の旧佐伯町、旧吉和村、旧大野町及び旧宮島町を含む。
資料：国勢調査